

親睦研修旅行の旅

第五十二回として紹介する協会は、網走地区滝上分会（小谷孝一分会長）です。同分会については昨年度も紹介しています。が、今回は、九月十四日から十六日にかけて親睦研修旅行が行われ、この旅行に参加した清水美知江さんの感想文を添えて投稿があったので、皆さんに紹介します。

清水美知江さんの感想文

連日の猛暑もやっと終り初秋の心地良い風を感じる九月十四日「身体障害者滝上分会」の会員参加者二十三名の期待と楽しみにしていた旅行の当日となりました。前任の会長加藤四郎様宅の前に集合。途中、二、三ヶ所待ち合わせの人と合流。一路、定山溪へと出発しました。砂川にて昼食、二時半には「滝野すずらん丘陵公園」へ着きました。金ろ梅・這松・黄色コスモス、その他の花々の群落が一面に広がっています。面積、四百ヘク

タール、甲子園の七十ヶ位の広さ又、国立公園十六ヶ所の中に唯一の北海道に有る国立公園です。足の悪い人達は、そちこちそぞろ歩きに見学し、健脚の人はゆるやかな登り道を歩いて、全景を満喫したとの事、加藤さんの詳しい説明に、無理をしても行きたかった、と思うも後の祭りでした。午後四時には定山溪の山溪苑に到着、和やかに夕食の宴、自慢のカラオケも聞き、六時より八時までの賑かな宴会を終えました。

旅行二日目朝九時十分に宿を



藻岩山慰霊碑の前で (H22.9.15)

出て、今回の旅の第一の目的地「藻岩山慰霊碑」戦没者のお参りの墓誌の前に立つ事ができました。以前に参拝した事のある、副会長の尾藤さんより詳しくお話を聞き予備知識を得ての御詣りです。昭和四十年に建立、激戦地沖繩の戦死した方の中にわが町出身者が四十一名祀られ、沖繩の珊瑚のかけらを名前の台石にはめ込んでいるとの事、今回の旅行者の中には、血縁の人、

又は知人の名が刻まれています。幾度も撫でさすって、現在の平和の礎となった方々に心から祈りを捧げました。来年は撤去とか移設の話題もあるとの由、事実ならといういろいろ考えさせられました。

「秋を待たで枯れゆく島の青草はみ国の春によみがえらん」手島司令官の辞世のうたとありました。あまたの人の尊い犠牲があつての現在の平和な日本が在るといふ思いに胸をあつくして墓前を去りました。十時五分お参りを終え、昼食の為「アサヒビール園」へ。でんと坐り込んだ会員の為に一生懸命、料理を運んでくださる加藤さんに勝手な注文をする私たちをゆるして運んでくださって、腹一杯食べる時間がありましたか？ほんのり頬を染めた人も皆で、二時半には、北海道庁及び赤レンガ記念館を見学です。(続きは次号に掲載します。)